

# PRsj

PUBLIC RELATIONS  
SOCIETY OF JAPAN

# NEWS

2023年3月号

NO. 349

## TOPICS

広報とは何か

(公社)日本パブリックリレーションズ協会 理事 柴山 慎一

MESSAGE P4

「PRsjの活動をもっと知ってもらおう3日間」オンライン開催

BULLETIN P5

(株)サニーサイドアップグループ次原悦子氏登壇  
第2回 They Talk Forum 開催レポート

BULLETIN P10

公益社団法人日本パブリックリレーションズ協会

〒106-0032 東京都港区六本木6丁目2番31号 六本木ヒルズノースタワー5F

電話(03)5413-6760 ファックス(03)5413-2147

URL <https://www.prsj.or.jp/>

関西支部 〒530-0003 大阪市北区堂島2-1-27 桜橋千代田ビル3F

電話(06)6344-3002 ファックス(06)6344-3005

発行人: 牧口 征弘

# 3月号目次

|                 |                                |   |    |
|-----------------|--------------------------------|---|----|
| 3月～4月のスケジュール    |                                | — | 2  |
| MESSAGE(メッセージ)  | 広報とは何か                         | — | 4  |
| ATTENTION(お知らせ) | 「PRSJの活動をもっと知ってもらおう3日間」オンライン開催 | — | 5  |
| 〃               | 「デジタルPR集中講座」を開講                | — | 6  |
| 〃               | 「危機管理広報講座」を3月下旬に開講             | — | 7  |
| 〃               | 2023年度PRプランナー資格認定検定試験          | — | 8  |
| 〃               | 「2023年度版 広報・PR概説」を3月下旬に刊行      | — | 9  |
| BULLETIN(活動報告)  | 第2回 They Talk Forum 開催レポート     | — | 10 |
| 〃               | PR業経営者懇談会開催レポート(会員限定)          | — | 15 |
| 協会掲載記事          | PRSJ in Media                  | — | 16 |
| PLAZA(会員情報)     | 入退会・変更会員                       | — | 17 |
| 事務局だより          |                                | — | 19 |

# 3月～4月スケジュール

## 【オンライン】

企業文化醸成講座

日 時 : 2月21日(火)～4月10日(月)  
 テーマ : 100周年事業を活用した企業文化醸成の取り組み  
 ～『未来』と『感謝』を伝える東急株式会社のインナー広報～  
 講 師 : 東急株式会社 社長室広報グループ 課長 樺 幸代氏

## 【オンライン】

PRアワード受賞事例公開セミナー

日 時 : 2月28日(火)～3月27日(月)  
 講 師 : 株式会社本田事務所 代表取締役 本田哲也氏  
 株式会社マテリアル PRトレーナー 田代 順氏  
 株式会社博報堂  
 第2マーケットデザインコンサルティング局 局長代理 畠山洋平氏  
 マーケティング・テクノロジー・センター 上席研究員 堀内 悠氏  
 株式会社電通PRコンサルティング 第2プランニング&コンサルティング局 チーフ・コンサルタント 浅田 愛氏

## 【オンライン】

デジタルPR集中講座

日 時 : 3月16日(木)～4月26日(水)  
 テーマ : インターネット新時代の「デジタルPR」推進のポイント～デジタルツールの活用とPRプランニング～  
 講 師 : 株式会社クラウドワークス 広報責任者 飯田真吾氏  
 株式会社マテリアル ストリーティングセンター  
 プランナー 常谷友梨絵氏  
 株式会社エルテス マーケティング・広報責任者 奥村高大氏

## 【オンライン】

危機管理広報講座

日 時 : 3月23日(木)～5月12日(金)  
 テーマ : 危機管理広報の要諦と進め方～企業の危機管理におけるコミュニケーション～  
 講 師 : 社会構想大学院大学 コミュニケーションデザイン研究科 教授/ゼウス・コンサルティング株式会社 代表取締役社長 白井邦芳氏

## 【ハイブリッド開催】

第42回広報ゼミ

日 時 : 3月20日(月)16:30～18:00  
 会 場 : ミッドタウン日比谷及びZoomミーティング  
 テーマ : 企業の変化を支える広報の役割と要諦～ZHD株式会社の取り組みから  
 講 師 : Zホールディングス株式会社 執行役員 広報・IR統括部 統括部長 /LINE株式会社 執行役員 広報室 室長 伊東由理氏

## 【ハイブリッド開催】

第23回企業部会フォーラム

日 時 : 3月29日(水)16:15～18:00  
 会 場 : 近畿大学東京センター及びZoomミーティング  
 テーマ : オンライン時代の企業広報とメディアのコミュニケーションについて  
 講 師 : 株式会社ニューズピックス 編集部 畑仁 優鋭氏  
 株式会社毎日新聞社 経済部長 柳原美砂子氏  
 日本放送協会 報道局経済部 記者 News Reporter 西園興起氏

## 3月～4月の理事会・委員会・ 部会スケジュール

|          |       |     |               |             |
|----------|-------|-----|---------------|-------------|
| 定例理事会    | (3月度) | 日 時 | : 3月 9日 (木)   | 16:00～17:30 |
|          |       | 会 場 | : 協会事務局+オンライン |             |
|          | (4月度) | 日 時 | : 4月 13日 (木)  | 16:00～17:30 |
|          |       | 会 場 | : 霞会館+オンライン   |             |
| 教育委員会    | (3月度) | 日 時 | : 3月 23日 (木)  | 10:30～12:00 |
|          |       | 会 場 | : ハイブリッド開催    |             |
| 資格委員会    | (3月度) | 日 時 | : 3月 23日 (木)  | 14:00～15:30 |
|          |       | 会 場 | : ハイブリッド開催    |             |
| 国際・交流委員会 | (3月度) | 日 時 | : 3月 3日 (金)   | 17:00～18:00 |
|          |       | 会 場 | : オンライン開催     |             |
| 広報委員会    | (3月度) | 日 時 | : 3月 23日 (木)  | 16:00～17:00 |
|          |       | 会 場 | : オンライン開催     |             |
| 顕彰委員会    | (3月度) | 日 時 | : 3月 27日 (月)  | 16:00～17:00 |
|          |       | 会 場 | : オンライン開催     |             |
| 企業部会幹事会  | (3月度) | 日 時 | : 3月 1日 (水)   | 17:00～18:00 |
|          |       | 会 場 | : オンライン開催     |             |
| PR業部会幹事会 | (3月度) | 日 時 | : 3月 20日 (月)  | 15:00～16:00 |
|          |       | 会 場 | : オンライン開催     |             |

## 広報とは何か

公益社団法人 日本パブリックリレーションズ協会  
理事 柴山慎一  
(日本広報学会理事長)

広報を取り巻く環境の変化を受け、広報やその周辺にある概念には大きな変化が生じている。言葉や概念自体、環境変化に合わせてその意味を進化させていくものでもある。そもそも「広報とは何か」という問いは、我が国や欧米でも過去百年に渡って議論されてきているが、未だ多くの実務家や研究者の納得する結論が出たとは言い難い状況にある。

特に日本においては、パブリックリレーションズという言葉の略語として使われ始めたPR(ピーアール)という言葉の意味が、本来の真意とは異なる意味に誤用され、広報に関連する言葉の意味を揺るがし、さらには広報に関連する活動に対する理解をも歪めていると指摘されることがある。

この1年半、日本広報学会においては、会員約650名全員参画の「新たな広報概念の定義」プロジェクトを立ち上げ、「広報とは何か」について議論し、その定義に挑戦している。昨年10月には、東日本国際大学で開催された研究発表全国大会において中間報告を行い、下記のような定義文案(第4版)を提示した。

広報とは、目的達成や課題解決のために、組織や個人が多様なステークホルダーとの双方向コミュニケーションによって社会的に望ましい関係を構築・維持する経営機能である。

この定義文案は、広報の目的、主体、客体、手段、分類で構成されている。類似用語であるパブリックリレーションズやコーポレートコミュニケーションについては、細かな意味の違いはあるものの、歴史的な議論を顧みても、本来の意味として示されてきた内容は類似しているため、日本語表現としてはそれらを合わせて広報として扱うこととした。

この活動に主体的にコミットしているプロジェクトメンバー数十名は、現時点における「新たな広報概念」を定義することは、広報の領域に対する世の中の理解度の向上、広報にかかわる人達に対する評価の向上、さらには広報に関係する人たちの間における認識の共有に貢献するとの共通の目的意識をもって本活動を進めている。

上記の定義文案について、本稿の読者のご意見も本協会事務局にお届けいただけたら幸いです。なお、定義文の背景となる考え方や引き続き議論の必要な論点についても、詳しい解説文を発表する予定である。

## 「PRSJの活動をもっと知ってもらう3日間」オンライン開催 4月17日(月)、19日(水)、21日(金)

2023年4月より新たな年度を迎えるにあたり、協会の活動をより詳しく知っていただき、皆さまの広報活動やネットワーキングにご活用いただくため、4月17日(月)、19日(水)、21日(金)の3日間を「PRSJをもっと知ってもらうための3日間」を開催いたします。事務局からPRSJの主な活動(パブリックリレーションズ研修プログラム、PRプランナー資格認定試験、PRアワードグランプリなど)についてご案内いたします。

参加費は無料、会員の方はもちろんのこと、入会をご検討いただく方にもZoomによるオンラインでご視聴いただけます。

詳細につきましては、協会Webサイト内申し込みページをご参照くださいますようお願い申し上げます。

【お申込みページ】 <https://prs.j.or.jp/event/prsj3days2023/>

### 記

#### 「PRSJの活動をもっと知ってもらう3日間」(参加無料)

##### 内 容

1. 協会について
2. 2023年度パブリックリレーションズ研修プログラムについて
3. PRプランナー資格認定試験について
4. PRアワードグランプリについて
5. その他、会員マイページなど会員向けサービスのご案内

##### 開催日

4月17日(月) 午後4:00~5:00

4月19日(水) 午後4:00~5:00

4月21日(金) 午後4:00~5:00

※上記3日間からご都合の良い日でご参加ください。

詳細とお申込みにつきましては、下記URLまたはQRコードからご確認ください。

<https://prs.j.or.jp/event/prsj3days2023/>



## パブリックリレーションズ実務講座 2022

## 「デジタルPR集中講座」を開講 ～「インターネット新時代の『デジタルPR』推進のポイント」～

教育委員会

協会では、パブリックリレーションズ業務におけるデジタルの効果的な活用を学ぶ「デジタルPR集中講座」を3月16日から開講しています。

インターネットの世界的な普及と高度化、日々進化するスマートフォンに象徴される電子デバイスの発達などを背景に、新たな時代ともいえる2020年代においてもメディア環境は大きく変化しつつあります。さまざまな情報を人々に伝達する有力な手段であった新聞やテレビなどマスメディアがかつての勢いを失う一方、ネットを介してさまざまな情報をスピーディーに伝えるWeb系メディア、SNSが情報流通に大きな変革をもたらしました。

メディア環境の変化を要因として、パブリックリレーションズの世界も大きく変わりつつあります。メディアの掲載スペースを競うパブリシティや企画広告の時代は過去のものとなり、今では多彩なデジタル手法を活用しながらステークホルダーに向けていかにコミュニケーションを効果的に行うか、その考え方や手法をしっかりと身につけることが、パブリックリレーションズ担当者にとっては重要になりました。

本講座は、パブリックリレーションズにおけるデジタル活用に豊富な経験を持ち、日々第一線で活躍している実務者を講師として迎え「デジタルPR」推進のポイントを学ぶ以下の3つの講義で構成しています。講座はオンデマンド方式による開講のため、受講者は任意の時間、場所で、受講期間中であればパソコン、スマホを用いて何度でも繰り返し視聴することができます。

パブリックリレーションズにおけるデジタル活用に貴重なヒントを提供する本講座。事業会社、PR会社等の現場でコミュニケーション活動における効果的なデジタル活用をめざす、多くのみなさまの受講をお待ちします。

講座の詳細、受講申込みについては、協会Webの講座ページをご覧ください（下記）。

<https://prsj.or.jp/event/digitalPR2022>

### ■「デジタルPR集中講座」の概要

| No | 講義タイトル   | 講師   |
|----|--|--|
| 1  | 「デジタルPR“新時代”～デジタル・コミュニケーションの考え方とプランニングにおけるPESOモデルの活用～」 | 株式会社クラウドワークス<br>広報責任者<br>飯田真吾氏             |
| 2  | 「デジタルで人を動かす力をPRで引き出す 多様化する趣味嗜好の中で、人の目に留まる企画づくり」        | 株式会社マテリアル<br>ストーリーテリングセンター<br>プランナー 常谷友梨絵氏 |
| 3  | 「ネット炎上の分析とリスク回避のポイント～発生原因、その防止に向けた考え方と対策～」             | 株式会社エルテス<br>マーケティング・広報責任者<br>奥村高大氏         |

（事務局・真部）

## パブリックリレーションズ実務講座 2022

## 「危機管理広報講座」を3月下旬に開講 ～白井邦芳氏による「危機管理広報の要諦と進め方」～

教育委員会

協会では、今年度のパブリックリレーションズ実務講座「中堅実務プログラム⑥ 危機管理広報講座」として、「危機管理広報の要諦と進め方～企業の危機管理におけるコミュニケーション～」を3月23日からオンライン開講します。

食品の産地偽装や異物混入、データ改竄や情報漏洩、突発的な事故や社員・役員の不祥事など、メディアで報道が続く企業の危機的事態は枚挙にいとまがありません。企業に対する社会や行政の監視がますます厳しくなる今、適切な対応を怠る企業が長年の努力を通じて築き上げたレピュテーションやブランドを一種のうちに喪失する事態も決して珍しくはなく、時には企業の存続までが脅かされる重大危機にも発展します。



白井邦芳氏

サステナブルな経営を志向する企業にとって重要なのは、内部統制を確立しコーポレートガバナンスを徹底するなど日頃から自らの襟を正しておくこと、またリスクを洗い出し未然に危機発生防止に努める危機管理の体制を整えるなど、経営トップのリーダーシップのもとに全社一丸となった危機管理が重要です。そしてよもやの緊急事態には、ダメージを極小化する緊急対応を進めるとともに社会の理解を得ながら再生への道をひらく適切な取組みが不可欠です。

何よりも危機管理を遂行するプロセスで重要なのは、虚偽のない適切な情報開示を行うコミュニケーション活動、すなわち「危機管理広報」です。平時から緊急時まで、全社的な危機管理の一環となる情報開示を担う「リスク・コミュニケーター」として、広報担当者は冷静かつ果敢に職務を遂行し社会への説明責任を果たさねばなりません。

危機管理広報が今までにもまして重要性を高める今、「リスク・コミュニケーター」としての広報担当者は、事態に応じ適切なコミュニケーションを行えるよう平時から危機管理の基本について理解しておかねばなりません。また、危機管理に必要な心構えに加え、SNSなどの普及を背景に情報が広範かつ短時間に拡散するネット時代にも対応できる実践的な知識、スキルの習得が求められています。

本講座では、講師に危機管理の専門家として知られる白井邦芳氏（社会構想大学院大学コミュニケーションデザイン科教授、ゼウス・コンサルティング株式会社 代表取締役社長）を迎え、最近の企業危機の動向と危機管理に関する基本的な考え方、さらに「リスク・コミュニケーター」に求められる危機管理広報の実践ポイントを解説いただきます。

講座の詳細、受講申込みについては、協会 Web の講座ページをご覧ください（下記）。

<https://prs.j.or.jp/event/risk-com2022>

危機管理の基本と危機管理広報の要諦を学ぶ本講座。皆さまの受講をお待ちします。

（事務局 真部）



## PRプランナー資格認定制度／検定試験

2023 年度PRプランナー資格認定検定試験  
実施スケジュール

資格委員会

PRプランナー資格認定制度は、PRパーソンとしての知識、スキル、職能意識を有することを認定する資格で2007年より実施されています。

2023年度は1次試験から3次試験まで各試験2回、合計6回の試験の実施を予定しています。各試験のお申込みは、資格制度Webサイトから「仮申込」を行った上で、CBTソリューションズのWebサイトで「本申込（試験日・試験会場の選択、受験料の支払いなど）」を経て、申込みは完了します。



2022年9月に実施された3次試験を経て、PRプランナー取得者の累計が3,000人を超えました。ぜひ受験をご検討いただければ幸いです。

| 試験                          | 実施日程                       | 仮申込・本申込、合否発表   |
|-----------------------------|----------------------------|--|
| <b>第33回 PRプランナー資格認定検定試験</b> |                            |  |
| 2次試験                        | 2023年5月13日（土）<br>～5月21日（日） | 仮申込期間：～4月28日（金）まで<br>本申込期間：～5月5日（金）まで<br>合否発表：5月31日（水） |
| 3次試験                        | 2023年7月予定                  | 仮申込・本申込開始：5月下旬予定<br>合否発表：8月予定                          |
| <b>第34回 PRプランナー資格認定検定試験</b> |                            |  |
| 1次試験                        | 2023年8月予定                  | 仮申込・本申込開始：6月1日（木）予定<br>合否発表：9月予定                       |
| 2次試験                        | 2023年11月予定                 | 仮申込・本申込開始：9月予定<br>合否発表：12月予定                           |
| 3次試験                        | 2024年1月予定                  | 仮申込・本申込開始：12月予定<br>合否発表：2024年3月予定                      |
| <b>第35回 PRプランナー資格認定検定試験</b> |                            |  |
| 1次試験                        | 2024年2月予定                  | 仮申込・本申込開始：12月1日（金）予定<br>合否発表：2024年2月予定                 |

試験スケジュールにつきましては、変更する可能性もございますので、下記のPRプランナー資格制度Webサイトでご確認くださいませよう、お願い申し上げます。

PRプランナー資格制度Webサイト：<https://pr-shikaku.prsj.or.jp/>



## PRプランナー資格認定制度／検定試験

## 「2023年度版 広報・PR概説」を3月下旬に刊行

—2023年8月と2024年2月に実施予定の1次試験に対応—

資格委員会

2023年8月に実施予定の第34回1次試験と、2024年2月に実施予定の第35回1次試験に対応した公式テキスト「2023年度版 広報・PR概説」を、3月下旬に同友館から刊行します。

2022年度版 広報・PR概説からの更新内容は、主に統計データの更新と、第9章CSR（企業の社会的責任）の『Ⅲ CSRにおける近年の潮流』に、新たに「SDGsに対応したサステナブルな取り組み」が追加されたものとなります。

本公式テキストは、1次試験の出題範囲となる、広報・PRの基本から、メディアリレーションズ、マーケティング、CSR、IR、危機管理など、幅広い範囲にわたる試験分野の内容をカバーしており、受験準備を効率的かつ効果的に行うことが可能となります。お求めは、発行元の同友館OnLine、全国の書店、またはインターネット書店でご購入いただけます。

ご多忙の中、ご執筆、ご監修いただきました会員の皆様、本当にありがとうございました。この場を借りてお礼申し上げます。



発行日：2023年3月31日 第1刷発行

仕様：A5判、345ページ

定価：2,640円（税込）

編著：公益社団法人日本パブリックリレーションズ協会

発行：株式会社同友館

ISBN：978-4-496-05653-6

<内容>

- 第1章 広報・PRの基本
- 第2章 企業経営と広報・PR
- 第3章 広報・PR活動のマネジメント
- 第4章 コミュニケーションの基礎理論
- 第5章 メディアリレーションズ
- 第6章 マーケティングの基礎理論
- 第7章 マーケティングと広報・PR
- 第8章 ブランドの基礎理論
- 第9章 CSR（企業の社会的責任）
- 第10章 インターナル・コミュニケーション
- 第11章 IR（インベスターリレーションズ）
- 第12章 グローバル広報
- 第13章 危機管理広報
- 第14章 行政・団体等の広報・PR

※各章末に参考問題付

## 第2回 They Talk Forum (2023年2月21日開催)

### 「女性社長 次原悦子のこれまでとこれから」

(株)サニーサイドアップグループ 代表取締役 次原悦子さん

第2回They Talk Forumは、アスリートマネジメントで知られるPR会社、株式会社サニーサイドアップの創業者である次原悦子さんをゲストスピーカーにお迎えしました。プログラムは講演と交流セッションの2本立てです。交流セッションは、5つのブレイクアウトルーム (Zoom) で参加者が交流しつつ、次原さんが各ルームを訪れて質問を受けるという初の試みです。創業以来38年間「ステイ・アット・シャドウ」を貫き通し、外部講演をしないことで知られる次原さんですが、人を引き寄せる明るい語り口でPRの可能性について語っていただきました。



#### 次原悦子さんの講演より

皆様、次原でございます。日本パブリックリレーションズ協会理事であり私の創業以来のパートナーである松本理永がつないだご縁で本日はお話しさせていただきたいと思っております。30分ほどのコーヒーブレイクだと思ってお付き合いいただければ幸いです。

サニーサイドアップの創業は38年前に遡ります。1985年、私は17歳の高校生でした。1985年は男女雇用機会均等法が制定された年です。男女間の雇用格差が同等になったはずですが、私が20代になっても女性の地位はさほど向上しておらず、女性をクリスマスケーキにたとえるような扱いが横行していました。いわく、24歳と25歳は高値、26歳になると市場が急落といったようなことです。高校生で起業した私は朝から晩まで仕事漬けで、大学も退学しました。子どもでしたから仕事というよりも世の中に参画することが楽しくて夢中になりました。その後、PRの手法を用いたアスリートマネジメントを手がけました。様々なチャンスをいただいてサニーサイドアップは少しずつ成長し、2008年に大証 (現JASDAQ) に上場、2018年東証一部に鞍替え。2022年プライム市場に移行し、現在は400名を超えるメンバーが在籍しています。

私自身のこともご紹介しますと、2022年、何を間違ったのか国際PR協会 (IPRA) 会長のお役目を拝命しました。2021年からは、それこそ何を間違ったのか経団連のダイバーシティ推進委員長を務めています。プライベートでは23歳の息子と19歳の娘の母であり、なぜか18年前に別れた夫の母と18年以上一緒に暮らしておりますが、今も絶賛独身中でございます。

#### ターニングポイントとなったのは鍋の蓋

もう少し過去を振り返ります。1985年、PR会社に勤めていた母が独立し、中野のワンルームマンションの1室でサニーサイドアップが始まりました。人を雇うお金もない母が手伝ってくれと声をかけたのが、娘である私と、私の同級生だった松本理永です。こうして17歳の新しい人生が

思わぬ形で始まりました。数年後、母は娘と会社を置いて香港にお嫁に行ってしまう。サニーサイドアップは、狭いデスクの脇に「目指せ サイパン社員旅行」と掲げる、20歳そこそこの若者だけの会社になりました。

そんなとき、ターニングポイントとなる仕事に出会いました。「吹きこぼれない鍋の蓋」。小さな会社が社運をかけて作った商品です。ニュースリリースを書いてメディアに持ち回りますがまったく相手にされません。悩んでいたある日、東急ハンズに立ち寄ります。調理用品コーナーにずらりと並ぶ便利グッズを見てひらめきました。単体ではPRにならなくても、便利グッズをまとめたら特集を組んでもらえるのではないかと、なけなしのお金で買い求め、週刊誌に便利グッズ特集が組めないかと持ちかけました。すぐに採用され、特集記事の真ん中で大きく「吹きこぼれない鍋の蓋」を露出することに成功します。さらには、週刊誌を見たテレビのワイドショーも取り上げてくれました。名もなき商品が切り口を変えるだけで世の中の話題になることを目の当たりにしたのです。



忘れられない仕事もう一つあります。「キスで入場無料」のキャンペーンです。当時、プロ野球の日本ハムは、ジャイアンツと東京ドームをホームシェアしていました。集客に悩む日ハムさん、予算はないが若いカップルを呼びたいと言います。そこで考えたのが「キスしたら入場無料」でした。お金は1銭もかかりません。誰も来なかったら私がやるしかないと思いついて当日の会場へと向かいました。予想は良い意味で裏切られます。メディアに取り上げられたことでとてつもない行列ができており、テレビ局は全局が取材に来ていました。話題になる企画にするだけでムーブメントが起こせることを実感

しました。

## PRのノウハウでアスリートをマネジメント

その後も小さな成果を積み重ね、仕事の幅は広がりました。しかしながら、必死にプロモートして商品が売れても、PRフィーはびっくりするほど安いのです。焼肉やビールを御馳走していただくのは嬉しいのですが、正直に言って割に合いません。だったら「自分たちのもの」をPRできないか。そこで始めたのがアスリートマネジメント事業です。モノをPRするようにヒトをプロモートするのです。

メジャーマイナーに関わらず才能にあふれたアスリートを発掘して、PRのノウハウでマネジメントします。雑務はこちらが一手に引き受け、アスリートは競技に専念。やがて、前園真聖、北島康介、中田英寿、為末大、上田桃子といった数々のアスリートが世界に羽ばたくスターへと成長してくれました。実力のある選手に付加価値をつけて、彼らが出した結果以上のブランドを創っていくという我々のマネジメントは、まさに長年のPRで培った手法でした。

中田英寿なしでは、今の私も、今のサニーサイドアップもなかったと思います。私の30代はまさに中田と歩んだ10年間でした。中田を引き合わせたのは、代表合宿のルームメイトだった前園です。前園が中田に「なぜサッカー選手になったの」と聞くと、「高校3年生の時に生涯年収を計算したら、大学に行くよりもプロになったほうが良いと知ったから」と言います。面白い奴だと



意気投合して、マネジメントが始まりました。中田はなかなかの変わり者で、悪く言えば偏屈です。しかし、偏屈をインテリジェンスに見せるのは私たちの得意技。腕の見せ所です。アスリートとしての活躍に付加価値をつけてプロモートして、広告契約を取ったり、その広告契約をPRしたり、話題になるアクションを起こしたり。PRの手法を駆使して、中田独自のブランドを創り上げました。

中田は30歳を前に引退を決意します。引退に向けて仕掛けたプロジェクトに翻弄されながらも、会社をこれからどうしよう、中田に続く「何か」を探さなくてはと考えました。私たちのPRのノウハウが使えて、事業をも生み出せる「何か」とは。そうして次の才能に出会います。ビル・グレンジャー。オーストラリアで小さなカフェ『bills』を営んでいた男性です。

### 「世界一の朝食」で海外展開する大きな事業へ

ビル・グレンジャーはNYタイムズで「エッグ・オブ・マスター」と称され、シドニーのbillsはレオナルド・ディカプリオなどのハリウッドスターが訪れることで有名でした。なるほどNYタイムズがそう言うなら、これはもう世界一と言っていいんじゃないか。「世界一の朝食」「世界一の朝食を作る男」としよう。PRであればそれは許されますし、最初に言えれば勝ちなんです。世界一の朝食を作る男としてビル・グレンジャーをPRしました。

2008年に七里ヶ浜でbillsがオープンするや、日本中にパンケーキブームが巻き起こったのは皆様ご存じのとおりです。billsは現在では19店舗、日本だけでなく海外でも展開する大きな事業に成長しています。10年以上経った今でも途絶えることなくPRを続けており、billsの人気は衰えていません。

### アドボカシー「ホワイトバンド」、大成功するも・・・

「最も思い出深い仕事は何か」と問われれば、2005年の『ホワイトバンド』プロジェクトを思い浮かべます。ホワイトバンドは、SDGsの前身であるMDGs（ミレニアム開発目標）のキャンペーンでした。「3秒に1人のペースで子どもが貧困のために亡くなっている。寄付だけでは解決できないこの世の貧困の解決のため、ホワイトバンドで連帯しよう。」イギリスのグレンイーグルズG8サミットに集まる首相に対して、ホワイトバンドを通じて声を届けようというものでした。人の行動を変える啓発活動「アドボカシー」のキャンペーンです。

ホワイトバンドはたまたまネットサーフィンで知りました。「3秒に1人に子どもが亡くなる」という現実に居ても立ってもいられなくなり、中田を始めとするセレブリティやクリエイターに声をかけたところ、素晴らしいプロモーションフィルムが完成しました。NPOやNGOと連携してホワイトバンドを製造販売した収益は、東京タワーをホワイトバンド化したり、ロックフェスを開催したり、本を製作したり、新聞広告を出したりと、様々な形態の啓発に費やしました。メディアが総がかりとなって話題は話題を呼び、ひと夏で600万人がホワイトバンドを着けてくれました。日本国内だけで600万人です。

ところがこのホワイトバンド、のちに強烈なバッシングを受けることとなります。販売価格300円のコスト内訳を公開していたにもかかわらず、「本当に慈善活動なのか」という声がささやかれるようになり、あっという間に大きくなりました。反省もありました。アドボカシーはまだ一般的ではなかったうえ、情熱に任せて拙速だったと思います。とはいえ、世界中で展開されたホワイトバンドキャンペーンにおいて日本がトップの動員数であり、5兆円の債務帳消しと6兆円のODA増額という巨額な影響を出しています。PRの力を使えば世の中を、そして世界を変えることができる実感した、忘れられないプロジェクトです。



## ハイポテンシャルなのは女性、Z世代、「金時持ち」

ホワイトバンドのバッシングでは、女性社長だからと好き勝手に言われ続けました。先述の通り、私は2021年に経団連ダイバーシティ推進委員会の委員長を拝命しました。2030年までに女性役員の占める割合を30%以上にしようと取り組んでいます。現在、日本の女性役員数はわずか9.1%です。元々はイギリスの『30% Club』との共同キャンペーンですが、イギリスでは10年前に12%だったのが今や38%にまで上昇し、目標を40%に修正しています。日本の上場会社における女性社長の数はわずか1%、女性のファウンダー（創業からの社長）に至っては数%どころか数名しかいません。ジェンダーギャップランキングで、日本は世界146か国中116位と惨憺たるものであり、世界各国と比べることも恥ずかしいような現状が続いています。

2022年からは国際PR協会（IPRA）の会長を務めています。カンファレンスでは、フィリピン、ウガンダ、インド、イラン、インドネシア、トルコといった国々のPRに触れて刺激を受けています。セッションに参加するのはみな若い世代で、リモートでも熱気が伝わります。Z世代はデジタルネイティブ世代でもあります。日本のZ世代は人口の約13.6%、わずか1700万人です。それがインドですと27%、なんと3億7000万人。日本と人口が同規模のフィリピンでも28.6%、3200万人もいるのです。各国のZとのディスカッションを通して、日本がZと真剣に向き合っていないことを痛感しています。今、Zに向き合っていないと、あっという間に各国に追い抜かれてしまうでしょう。

私は56歳ですが、この年代も今後20年間はポテンシャルがあると感じています。子が巣立ち、親の介護も落ち着いて、自分のために使えるお金が増えてくる。経済的余裕も時間的ゆとりもあるいわば「金時持ち（きんときもち）」です。50代のポテンシャルは、誰もが知る『サザエさん』にたとえるとわかりやすいでしょう。お母さんの磯野フネは、原作では明治生まれの52歳でした。現在の52歳は、石田ゆり子さん、中山美穂さん、いとうあさこさん。波平さんは54歳ですが、今の54歳は大沢たかおさん、江口洋介さん、織田裕二さんです。寿命が30年伸びた分、私たちのポテンシャルも30年間長くなっているのです。

## ChatGPT に未来を尋ねてみる

さて、お時間も終わりに近づいてきました。最近話題の人工知能チャットボット『ChatGPT』に、日本のPR業界における女性の役割は何かと尋ねてみました。いかがでしょうか。まさにこの通りだなと思います。

29

### 日本のPR業界における女性の役割はなにか ChatGPTに聞いてみた！

【返答→】日本のPR業界において女性は、重要な役割を果たしています。そして、女性が活躍するPR業界には、以下のような特徴があります。

- ★コミュニケーション能力を活かした業務に適性がある：

PR業界には、企業やクライアントとのコミュニケーションが重要な仕事が多くあります。女性は、コミュニケーション能力が高く、お客様や社内外の関係者と円滑なコミュニケーションを取ることができるため、業務に適性があるとされています。

- ★多様な価値観を持っている：

女性は、多様なバックグラウンドや経験を持っていることが多く、それぞれの視点や価値観を持っています。このような多様性は、クライアントの多様なニーズに応えるために必要であり、PR業界において重要な役割を果たしています。

- ★前面に立つことができる：

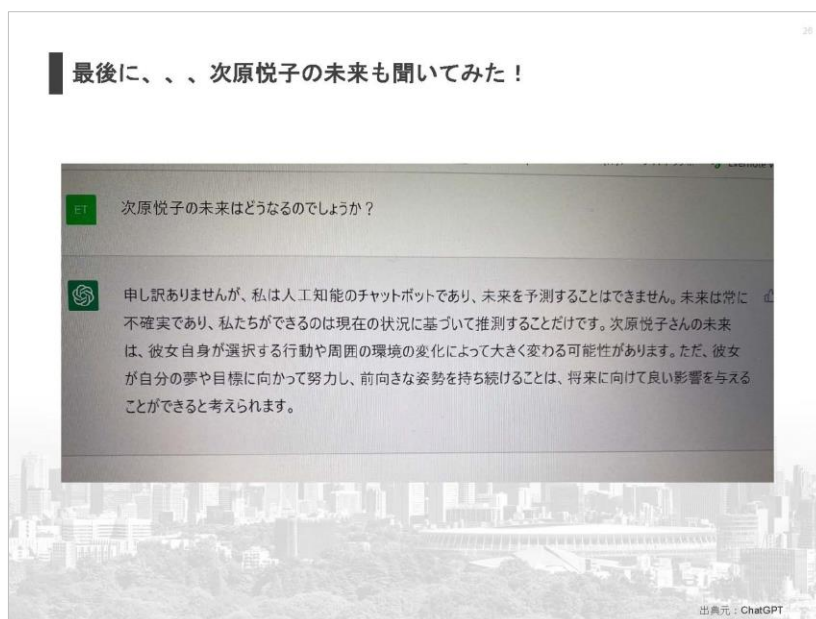
PR業界では、企業やクライアントの代表として、メディアや社内外の関係者とのやり取りが必要な場合があります。女性は、積極的に前面に立つことができるため、そのような場面で活躍することができます。

- ★ワークライフバランスの取りやすさ：

女性は、家庭との両立をしながら働くことが求められることが多く、ワークライフバランスの取りやすさが重視される傾向があります。PR業界は、フレックスタイム制度やリモートワークなど、柔軟な働き方ができる環境を整える企業も多いため、女性が活躍しやすい環境が整っています。

出典元：ChatGPT

最後に次原悦子の未来もChatGPTに尋ねてみました。



38年前はただ毎日が楽しくて、未来を想像したことなどありませんでした。お金も知識も、プライドさえもなく、目の前の仕事に必死で取り組みました。そんな日々の積み重ねが、今につながっているわけです。ChatGPTにあるように、未来は私たちが選択する行動によって大きく変化します。より良い未来に結びつく選択ができるよう、頑張っていきたいと思います。

(交流セッションを挟んで)「人の気持ちが変われば人の行動が変わり、人の行動が変われば世の中が変わる。」私が17歳の時から胸に抱く信条です。PRの仕事は世界を変えられる仕事だと信じています。ぜひ日本のPRを盛り上げていきましょう。ご清聴ありがとうございました。

(了)

文責：石田 奈緒子 ((株)東京個別指導学院)

**会員限定**

**PR業経営者懇談会4年ぶりにリアル開催  
國學院大學河准教授をキーノートスピーカーに  
「パブリックリレーションズを仕事とする、その意義  
をどのように伝えるか」について語り合う機会に**

2023年2月16日17時30分より、六本木の国際文化会館にてPR業部会主催のPR業経営者懇談会「パブリックリレーションズを仕事とする、その意義をどのように伝えるか ～ポストコロナの時代のPRのパーパスを考える～」が開催されました。コロナ禍にあってリアルで経営者が一堂に会したのは2019年3月以来、実に4年ぶり。開始前には、この間に新たにメンバーに加わった人たち同士の名刺交換などあり、江良部会長の挨拶で久しぶりのリアルでの懇親会が和やかな雰囲気での始まりました。



## PR SJ in Media

### ●3月1日(水) 『月刊宣伝会議』(宣伝会議)4月号

『月刊広報会議』2023年4月号における連載コラムで、当協会が1月19日に「新春PRフォーラム」を開催したことが掲載されました。

コラムでは、第一部の特別講演に早稲田大学教授で元衆議院議員の中林美恵子氏が登壇したこと、また第二部では、「2022年度PR大賞」の「パーソン・オブ・ザ・イヤー」におけるプロスケーター 羽生結弦氏の受賞、また「シチズン・オブ・ザ・イヤー」での全国てらこやネットワークの受賞を記念する表彰式が行われたことが紹介されました。あわせて中林氏による特別講演のポイント、両賞の受賞理由や羽生氏の受賞コメントなどに触れられています。

[記事協力：株式会社内外切抜通信社]

## ■■■■■■■■■■ ■■■事務局だより ■■■■■■■■■■

事務局の青田です。

コロナ禍が収束に向かいつつあり、例年より早い桜の開花とともに、次年度に向けての動きが活発になってきました。季節の変わり目に体調を崩さぬようご自愛ください。

さて、今月のトピックです。

## ■調査ラッシュです！みなさまのご協力をお願いします。

年明けから協会の調査4本が走っており、会員のみなさまには連日のように回答のご協力をお願いさせていただいています。いずれも今後の協会活動を検討するための重要な材料となるとともに、対外的にパブリックリレーションズを訴求する貴重な情報になります。

みなさまのご回答が頼りですので、どうかよろしくをお願いします。

- ① 「パブリックリレーションズ（広報・PR）業務と人材育成に関する調査」（資格委員会）  
実査が完了し、理事会で結果の概要が報告されました。回答のご協力ありがとうございました。これを受けてPRプランナー資格制度の在り方について検討が始まります。
- ② 「“ひとり広報”実態調査」（個人会員施策担当チーム）  
実査が完了し、理事会で速報レベルの集計報告がなされ、現在詳細な分析を進めています。回答のご協力ありがとうございました。レポートを楽しみにお待ちしております。
- ③ 「PR業実態調査」（PR業部会）  
隔年実施の定例調査を現在実施中です。PR業の状況を時系列で発信する重要な調査ですので、対象となるPR業のみなさまには是非ともご回答いただきたく、よろしくお願いします。
- ④ 「SDGsの取り組みに関するアンケート」（企業部会）  
第43回広報ゼミのテーマが「サステナビリティ、ESG」に決定したことを受け、より実態に即したセミナーにするため企画された調査です。現在集計中です。

言うまでもなく、調査データは、パブリックリレーションズが重要視するFACT情報の最たるもののひとつです。引き続きご協力のほど、よろしくお願いします。

（事務局長 青田）

編集担当より

本誌の内容に関するご意見・希望をお寄せください。  
中身の濃い会員誌に育てていきたいと思っておりますので、  
よろしくお願いたします。

広報委員会

Eメール [mail@prsj.or.jp](mailto:mail@prsj.or.jp)

FAX 03-5413-2147

※禁転載